

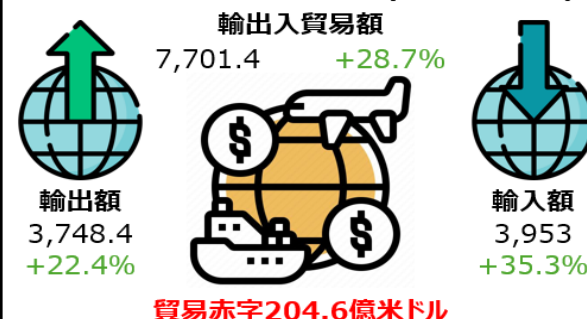
<ベトナム・リサーチ・レポート>

ベトナム貿易の見てきた 1 兆米ドルと高付加価値化への転換

2026 年 1～8 月期のベトナムの商品輸出入総額は前年同期比 28.7%増の 7,701.4 億米ドルに達し、同期間として過去最高を更新した。うち輸出額は 3,748.4 億米ドル（同 22.4%増）、輸入額は 3,953.0 億米ドル（同 35.3%増）となった。8 月単月の貿易額が 1,097 億米ドルに達したことを踏まえると、通年の貿易規模は 1 兆米ドルの台に達する可能性が現実味を帯びている。

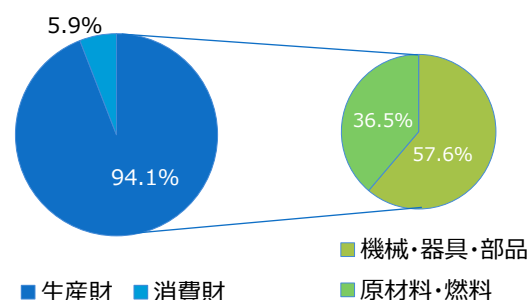
8 か月間の実績を品目別に見ると、加工製造品グループが輸出総額の約 90%を占めた一方、燃料・鉱業品グループは 0.6%に縮小した。特筆すべきは、エレクトロニクス関連製品の輸出額が前年同期比 51.1%増の 1,010.6 億米ドルに達し、輸出全体の伸び率を強く牽引した点である。また、機械・設備・工具の輸出額も同 26.4%増の 472.9 億米ドルを記録した。これらの実績は、ベトナムの輸出牽引役が、より技術水準が高くサプライチェーンの結びつきが強い産業分野へと一段とシフトしていることを物語っている。

2026年1～8月の輸出入状況（前年同期比%）



（出所）ベトナム統計局（NSO） 単位：億米ドル

2026 年 1～8 月期のベトナムの商品輸入構造



（出所）ベトナム統計局（NSO）

輸入の品目を見ると、生産財（資本財・中間財）が輸入総額の 94.1%を占め、そのうち機械・設備・工具・部品が 57.6%、原材料・燃料が 36.5%となった。一方、消費財の割合はわずか 5.9%にとどまっている。商工省によると、エレクトロニクス関連の輸入額が 68.3%増と大幅に拡大したほか、機械・設備・工具の輸入額も 22.1%増を記録しており、生産拡大に伴う機器の設置などの設備投資に向けた需要と密接に関連している。

これから示唆されるのは、足元における輸入増が、主として生産能力の拡張や設備投資、さらには将来の輸出能力の増強に向けたものであるということである。

サプライチェーンの観点から見ると、エレクトロニクス関連製品や機械の輸出拡大と、部品・設備の輸入増加が同時に進行していることは、ベトナムがグローバルな生産チェーンにおいてより付加価値の高い工程を引き込んでいることを物語っている。一方で、輸出額に占める海外からの直接投資（FDI）関連企業の割合は依然として約 80%という高水準にあり、国内企業がサプライチェーンへの参画を強め、貢献度を高めるための課題が存在する。「2026～2035 年期支援産業発展プログラム」においては、国内生産能力の向上、現地調達率の引き上げ、そしてベトナム企業のグローバル・サプライチェーンへの参入を後押しすることを目標に掲げている。

ベトナムの貿易の真価は、1 兆米ドルという「量的拡大」にとどまらず、いかに国内の付加価値を高めるかにある。国内企業による高付加価値製品の生産能力を強化すれば、貿易の拡大は、グローバル・バリューチェーンにおけるベトナムの立ち位置を大きく引き上げる推進力となるであろう。

<免責事項>

当資料は、情報提供を目的として、キャピタルアセットマネジメント株式会社（CAM）が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAM が運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。